

研究タイトル：

カハル・オ・シャルキー研究



氏名： 星野恵里子 / HOSHINO Eriko E-mail: hoshino@okinawa-ct.ac.jp

職名： 教授 学位： 文学修士

所属学会・協会： 日本アイルランド協会 日本イェイツ協会

キーワード： ウィリアム・ブレイク グノーシス主義 ウィリアム・バトラー・イェイツ アイルランド語 カハル・オ・シャルキー

技術相談
提供可能技術：
・英語
・イギリス文学
・アイルランド文学

研究内容：

・ウィリアム・ブレイクの作品群をたどっていくと、ある時期にグノーシス主義の影響が色濃くみられることがわかる。この傾向は、たとえば Songs of Experience に始まり、預言書のある時期まで続く。であるならば、それはいつごろまでこの傾向が続き、なぜ最終的にはブレイクはグノーシス主義を利用することをやめたのか。そのヒントとなる作品が Vala, or The Four Zoas にあるように思われる。そこで、本作品を構成している「9つの夜」を解析しながら、本テーマを考察したい。

・アイルランド文学の父とも言われているウィリアム・バトラー・イェイツに与えたウィリアム・ブレイクの影響はかなり大きいことは明白であるが、イェイツは自分の思想の発展のためにブレイクを利用していった感がある。たとえば、作品の多くの箇所と言及されている「薔薇」のイメージであるがこれはほとんどが、ジョン・キーツからの借用であることが指摘されている。しかしながら、ブレイクの Songs of Experience には有名な 'The Sick Rose' という作品があり、イェイツは意図的にブレイクの薔薇のイメージを無視していたと考えられる。それはどのような意図のもとに無視されたのか、拡大すれば、ブレイクにあって特徴的でありながらイェイツに無視されていた概念はどのようなものがあるのだろうか。ともすればその類似点ばかり強調されるこのブレイクとイェイツの決定的な相違点は何か。また、「文学史」というより大きなコンテキストの中で、ブレイクやイェイツの薔薇観はどのような意味を持つのであろうか。

・アイルランドは数百年間にわたり英国を宗主国としてあおいでいた。本来、アイルランドには「アイルランド語」という英語とは全く異なる言語があったが、英国植民地時代はアイルランド語使用を禁止され、英語使用を強制されていた。その影響は文学にも色濃く残り、アイルランド文学の父といわれるイェイツや、ほかのメジャーな文学者でさえ、英語で作品を執筆している。しかしながら、アイルランド語で執筆される文学は依然として存在している。アイルランド語で執筆する現代詩人のひとりに、カハル・オ・シャルキーがいる。彼は自分がゲイであることを表明した最初のアイルランド語詩人としても知られている。オ・シャルキーにおけるアイルランド語とは何であるのか、英語とはいかに異なるのか、彼の恋愛詩は果たして男性対男性のものなのか、などを詩人の作品をほかの言語を介さずにアイルランド語で解説しながら研究する。

共著「カハル・オ・シャルキー」 木村正俊編『アイルランド文学』（開文社出版株式会社）

提供可能な設備・機器：

| 名称・型番(メーカー) | |
|-------------|--|
| | |
| | |
| | |
| | |

A Study of William Blake Translation of Ó Searcaigh's works into Japanese



| | | | |
|------|---------------|--------|--------------------------|
| Name | Eriko HOSHINO | E-mail | hoshino@okinawa-ct.ac.jp |
|------|---------------|--------|--------------------------|

| | |
|--------|-----------|
| Status | Professor |
|--------|-----------|

| | |
|--------------|---|
| Affiliations | Japan Ireland Society Yeats Society of Japan |
|--------------|---|

| | |
|----------|---|
| Keywords | William Blake, Cathal Ó Searcaigh, William Butler Yeats, Irish Language, Gnosticism |
|----------|---|

| | |
|--------------------------|--|
| Technical Support Skills | |
|--------------------------|--|

Research Contents

Field of Study

- 1) Gnostic influence upon William Blake's poetry
- 2) A fundamental difference between William Blake and W. B. Yeats
- 3) A study of Cathal Ó Searcaigh and translation his works into Japanese

Recent Research Results

- Where has Blake's 'The Sick Rose' Gone?
(Annual Conference of Yeats Society of Japan, 2014)
- A Study of Cathal Ó Searcaigh---Writing Poems in Irish---
(*Bulletin of Musashino Academia Musicae*, 2012)
- Dreadful Contraries---Re-reading William Blake's 'The Mental Traveller'---
(Annual Conference of Yeats Society of Japan, 2012)
- Modern Irish Poetry: Máirtín Ó Direáin, Seán Ó Ríodáin, Nuala Ni Dhomhnaill and Cathal Ó Searcaigh
(Symposium, Annual Conference of Irish Studies, 2011, Japan Ireland Society)

Available Facilities and Equipment

| | |
|--|--|
| | |
| | |
| | |
| | |
| | |